



安く遠くへ 夏の海外旅行 スクーター感覚でLCCを乗りこなそう



航空の世界には、さまざまなルールや専門用語があって実に面白い。

空港一つひとつに世界共通のコードがあり、アルファベット3文字で綴られるため、「3レターコード」と呼ばれる。手荷物を航空会社に預けたときにクレームタグと呼ばれる手荷物預かりの半券をもらうが、そのバーコードにも埋め込まれる。旅客と一緒に手荷物も、確かに運送するための、いわば暗号のようなものだ。

羽田空港(東京国際空港)はHND、成田国際空港はNRT、いずれも都市コードはTYOで東京を意味する。関西国際空港(KIX)をキックス、米国のロサンゼルス国際空港(LAX)をラックスと、縮めて呼んだりもする。

それに対して、航空会社は2レターで示される。日本航空はJL、全日空はNHといった具合で、業界の人たちは「こないだ、VNさんにお世話になった(VNはベトナム航空の2レターコード)」などと、日常会話にも使用する。これらは、IATA(国際航空運送協会、通称「イアタ」)によって定められていて、時刻表を読み解くときなどに欠かせない。

先日、イアタに勤める白門の先輩と一献した折り、空港管制官をテーマにしたTVドラマの話題で大いに盛り上がった。技術監修がどうだとか、画面に映し出された小道具のモックアップ(航空機のスケールモ

デル)がこうだったとか、内容も微に入り細に入りで、さすがの私もついていくのが精いっぱいだ。

管制官が、上空などにいる民間航空機を呼ぶときに使われる“コールサイン”も面白い。コールサインとは、国連の専門機関ICAO(国際民間航空機関、「イカオ」)に登録されたもので、先の2レター、3レターコードは管制塔では使われない。例えば、英国航空のコールサインは「スピードバード」、台湾のチャイナエアラインは「ダイナステイ」で王朝を意味する。

近ごろは、格安航空会社LCCをはじめ新興航空会社が次々に誕生しているから、管制官は新語を覚えるのも一苦労だろう。なかでも目をひくのが、2012年に成田に就航したLCCのSCOOT(スクート)だ。コールサインは「スクーター」。まるで原付バイクに乗るかのような気軽さで、空を飛んでほしいとの想いらしい。

このスクートを乗り継いで、バンコクまで行く計画を今、立てている。成田発、台北経由でシンガポールに入り一泊して、翌日、バンコクへ向かう。スクートはシンガポール航空系のLCCで、元気な黄色が目印だ。シンガポール以遠の路線拡大も近ごろめざましいから、乗り継いで、さらに遠くへ旅ができる。

ちょうどこの時期、中大時代の同期の仲間たちが勤続25年の報奨休暇を利用

してタイに集まるというので、私はバンコクで、一日だけ合流する予定でいる。とはいえ皆も仕事を持つ身だから、私と同様、そう長くはられない。自由になるお金が入ったと思ったら、今度は時間がないのが社会人だ。

LCCが日本の空を本格的に舞い始めてから、わずか1年。これまでにない魅力的な価格で国内外を移動できる時代に、学生の皆さんが、正直、うらやましい。

ちなみに私の初めての国際線利用は、大学2年の夏、今はなきパンナム(パンアメリカン航空の略称で、当時のコールサインは「クリッパー」。1991年に破たん)だった。3年の夏休みには、経済学部ゼミの仲間たちと中華航空公司(チャイナエアライン)の格安チケットで台湾へ飛んだが、LCCほどに安い航空券は昔になかった時代である。旅費をねん出するためにアルバイトに励み、貯まれば旅に出るという繰り返しの日々だった。

学生時代の夏休みは人生の大きなチャンスで、またとない。スクーター感覚でLCCを乗りこなして、安く遠くへいってみよう。浮いたお金で、少し長めに滞在するとよい。きっと秋には、大きく成長していることだろう。この夏、ぜひ、よい旅を!



親日家で知られるSCOOTのCEOキャンベル・ウィルソン氏と

略歴 ちば・ちえこ 観光ジャーナリスト。横浜商科大学講師。中央大学経済学部卒。著書に「観光ビジネスの新潮流」(学芸出版社)など多数。